サンディエゴ短期宣教旅行2026

いこいの汀教会 原田さくら







初めに、たくさんのお祈りと献金によって支えてくださった保守バプテスト同盟諸教会の皆様、宣教団の皆様、本当にありがとうございました。今回の短期宣教旅行では、新たな経験と人との交わりの中 から多くを学び、日々神様の恵みを味わっていました。この2週間、私達のために祈ってくださる方々 の存在にとても励まされ、そして、神様はその祈りに答えてくださる方だということを実感しました。 私がこの宣教旅行で得たことを、皆様にも共有させていただきます。

私は他のチームメンバーと違い、今年の5月にバプテスマを受けたばかりで、クリスチャンとしては 新参者でした。さらに聖書の学びを深めたいという思いがあり、学びの機会が与えられるように神様に 祈っていたところ、ちょうど6月にこの短期宣教の募集があったため、迷わず申し込みました。知り合 いも一人もおらず、少しばかり不安もありましたが、教会の兄弟姉妹に支えられ、チームの仲間にも恵 まれて、素晴らしい体験とともに尊敬できる友人たちに出会うことができました。私にとっては、この 宣教旅行の機会が与えられたこと自体が大きな恵みです。

この旅を通して特に私が学ばされたのは、宣教に対する姿勢です。私はクリスチャンになったことを 家族以外にはほとんど話しておらず、仲のいい友人にも話せずにいました。クリスチャンとしての自分 と一般社会に向けた自分がいて、日常生活の中で神様を意識していない時間が少なからずありました。 ですが柏倉先生とともに行動する中で、先生はどんな時でも宣教する機会を見逃さず、常に福音を語れ るようにしていました。そしていつも神様に祈り、より頼むその姿を見て、日本に戻ってからも常に福 音を堂々と語れる、クリスチャンとしての自分でいようと思わされました。

バルボアパークで出会った語学留学生たちとの交流は良い実践の機会となりました。私は誰かに福音を伝えるのはこの時が初めてで、どのように伝えたらいいのか、どうしたら聖書に興味を持ってもらえるのだろうかと考えて、とても緊張していました。ですが、いざ話してみると私が想像していた以上に相手からたくさん質問が飛んできて、同じテーブルにいたメンバーがそれぞれ自分の体験を証しし、留学生の子の話を聞くこともできて、とても良い話し合いの場になりました。さらに驚いたのは、哲学が好きだという学生がいたことです。私が教会に通い始めたのは、大学で哲学を学んでいたことがきっかけでしたので、彼はニーチェなどの近代哲学が好きだということで、なおさら伝えがいがあると思い、私自身もとても楽しみながら素直に考えを伝え合うことができました。私は、彼らはあまり私たちの言葉に耳を傾けないだろうと思っていたのですが、心に壁を作っていたのはむしろ私の方でした。このような出会いが与えられたことに神様の導きを感じ、また、そのように祈ってくださっていた方がいたことを知って、深く心が動かされました。

たくさんの学びがある中で、私自身の心が変えられ、伝道への強い動機が与えられた出来事があります。日曜日にラホヤにある教会へ向かう車の中で、柏倉先生とお話する機会がありました。私はこの短期宣教に参加する以前から神様に献身したいという思いがあったのですが、自分の心に迷いや葛藤があり、そのことについて柏倉先生から助言をいただいていました。先生から伝えられたことの中で特に考えさせられたのが、人生を通して献身するには「主からの召しが大切である」ということです。その言葉を聞き、自分は神様に何を望まれているのかを自分自身に問いかけ、また、神様のみこころを教えてくださいと祈り求めていました。

いこいの汀教会 原田さくら

その後のラホヤの夕礼拝では教会の誕生についての説教があり、そこ では第一テサロニケ１:４の「私たちは、あなたがたが神に選ばれていることを知っています。」という みことばが引用されました。このみことばを聞いて神様が私を選んでくださっているのだと改めて実感 し、完全に神様を信頼してそのみこころに応えたいと祈りました。すると、説教が終わって賛美を歌っ ているときに、突然自分の中に「世界中のすべての人に福音を伝えなさい。すべてのクリスチャンが福 音を宣べ伝えられるようにしなさい。」という言葉が現れました。このような体験は初めてで驚きまし たが、その瞬間に私はその言葉の意味を深く悟らされ、そのようにしなければならないのだと感じ、応 えてくださった神様への感謝とともに涙が出てきました。この言葉は今でも私の内に強く焼き付いてい ます。その後礼拝が終わるまで涙をこらえていたのですが、終わった途端に耐えられなくなり、それを 見た友人が他の部屋に連れ出してくれました。友人は私が落ち着くまでそばにいてくれて、他の姉妹と ともに私のために祈ってくれました。その後にも柏倉先生とえりこさん、アリソン、デイヴィッドが私 のために祈ってくださいました。また、あるメンバーが、皆がこの宣教旅行で神様を感じることが出来 るようにと祈ってくれていたことを知りました。そのような兄弟姉妹がともにいてくれたことに、本当 に感謝しています。





サンディエゴ短期宣教報告

恵泉キリスト教会　米沢チャペル　山岸 巴恵



今回の短期宣教旅行、祈りと献金をもって私たちを送り出してくださったこと本当に感 謝します。少しではありますが、恵みを分かち合わせていただきます。 私が今回の旅で一番印象に残っていることを聞かれたら、迷いなくバルボア公園での出 会いだと答えます。柏倉宣教師に観光で連れて行ってもらったその公園で、思いがけず日本 人の語学留学生と遭遇したのです。お互いサンディエゴを楽しみましょうと言って終わる はずだったその出会いは、柏倉宣教師の「明日、教会の夕食会に来ないか」という一言で大 きく意味のあるものになりました。 この時、柏倉宣教師が見せてくれた、目の前に神様からのチャンスが来た時、瞬時にアク ションを起こす姿には本当に圧倒されました。背中で宣教の姿勢を見せてもらったと思っ ています。また、このことが起こる前に、実は柏倉宣教師の奥様の晴香さんがバルボア公園 で誰か日本人と出会って、チームの皆が交流できるようにと祈って下さっていたというこ とを後で知り、奇跡の裏には誰かの祈りがあること、そして祈りの力を感じました。 次の日の夕食会では、柏倉宣教師が「神様」についてその子たちに問いかけました。私は 彼らが、宗教に対して拒絶反応を起こさないかと心配していました。しかし、哲学が好きで 神学的に興味がある、高校がミッション系だった、教会学校に行っていたなど、むしろ、相 手の方から話したり質問したりしてくれることが多く、私たちの想像をはるかに超えた神 様の恵みに驚かされるばかりでした。神様は生きて働いておられると実感しました。

夕食会の最後に連絡先を交換し、私たちの役割はここで終わりだと思いました。彼らに、 クリスチャンって変な、よく分からない人たちじゃなくて、こんな感じの人たちかとポジテ ィブな印象を持ってもらえたのではないかと満足していました。特に積極的に連絡するの ではなく、SNSでごく細く繋がるくらいでもいいかなと考えていました。

しかし、それは突然やってきました。柏倉宣教師が帰国前日に、みんなにチャレンジを与 えると宣言したのです。彼らと連絡を取り続け、彼らの救いのために祈るようにと。正直、 このことを言われた時「うわーー、、、神様からのチャレンジここで来たか、、、(￣ロ￣lll)」と思いました。信仰的な学びは頭で理解するだけではなく、アクションを起こした時に最も 祝福され、神様を体験できるという事は重々承知しているつもりでしたが、それにしても本当にやりたくない、、、と思いました。その思いの裏側には、宣教への恐れがあったと思いま す。拒絶されたらどうしよう、どう思われるんだろう、勧誘してきたやっぱり宗教は、など と相手が感じたらどうしようという思いが頭を渦巻いていました。

けれども、この宣教旅行の中で聖霊に満たされ、燃やされ、恐れなどなく、神様のことを 伝えるために突き進みました。と続いたらとてもドラマチックですが、そんなことはなく、 自分には宣教をするだけの勇気も言葉もないように思えました。ただ単純に神様からその ように示されたのだから従おうと震えながらメッセージを送りました。私にとって大きな 挑戦でした。 このことに関して、もう一つ私にとってのチャレンジがありました。それは、連絡を取る ことについて、チームに祈ってもらったことです。今までの私は、このようなアクションを 起こすとき祈ってもらった方が良いと分かっていても、失敗したときに伝えるのが恥ずか しいという思いから言えませんでした。しかし、今回のミッショントリップの中で、祈りと チームで宣教する力強さを学び、祈りの援護射撃の要請をしました。

恵泉キリスト教会　米沢チャペル　山岸 巴恵

その時にチームのメンバーから「最終責任者は神様！たとえ、拒否されても行動を起こし たことが自分の成長に繋がるよ！」と声をかけてもらいました。この励ましも、彼らに連絡 を取るという一歩を後押ししてくれました。 ここまでの文章でも分かる通り、私は宣教旅行で劇的に変えられて宣教への不安や恐れ なく、アクションを起こせるようになったというわけではありません。私は、自分が宣教す るなんでムリだ、、、と考えているちっぽけな私のままで、皆の祈りがあって手探りでどうに か踏み出している状態です。自分はまだまだ発展途上で、現在進行形で信仰の成長の道を一 歩ずつ進んでいる最中なのだと思います。たとえ今この瞬間は、ミッショントリップの前後 で自分の内側に劇的な変化を感じていなくても、何十年か後に振り返ったときに、自分が宣 教という人生をかけたミッションに生きるために神様から変えられた大きな転換点として、 この旅を思い出せたらいいなと思っています。 最後に、とても感謝なことに、1 人の語学留学生とはその後も連絡が続き、10 月末には オンラインで会う予定が決まりました。その時に、私の救いの証もする予定です。本当に皆 が宣教のためのチームとして一緒に祈ってくれたおかげだと感じています。これから神様 がどのように導かれるかわかりませんが、どんな結果にも感謝しつつ、いつも祈りつつ進ん でいこうと思います。このことに関して皆様にも引き続きお祈りいただけたら幸いです。

　改めて、皆様の祈りと献金のご支援に心から感謝します。ありがとうございました。







サンディエゴ短期宣教旅行

盛岡聖書バプテスト教会　近藤 大路



今回サンディエゴに行くことができたことに感謝します。私たちのために、祈りや献金を通してサポートしてくださり本当にありがとうございました。

私は、アメリカでの15日 間を目一杯楽しみ満喫しようという思いを胸に宣教旅行に臨みました。しかし、神様はそ んな私の思いをはるかに超えた素晴らしい多くの出会い、学び、そして経験を与えてくだ さいました。 この期間を通して受け取ったものの中からここに何を書こうかと、いくら考えても決め ることができません。書いては消し、書いては消しを繰り返し、気がついたら提出期限が過ぎてしまいました。

メンバーが書いた報告書を読みながら改めて「本当に恵まれた宣教旅行だったなぁ」と思うと同時に「もうこれ俺が書くことなくないか？」とも思ってしま いました。伝えたいことはもうみんなが書いてくれたので、是非その報告を読んでくださ い。

私は15日間に起こった出来事を一つずつ振り返るというよりも、今回の旅を通して、これからの自分について考えさせられたことを書こうと思います。

私には将来起業したいという夢があります。今回の旅を通して、その想いが以前よりも 強くなりました。大学3年生になり就職活動も始まって、本格的に自分の将来について考 えるようになりました。そんなタイミングで今回の宣教旅行に行ったことで、今までより も自分の将来とクリスチャンとしての生き方が強く結びついたように感じます。

今までは 「起業したい」という将来の夢と「神様に従って歩んでいきたい」というクリスチャンとしての思いが自分の中で少し乖離している感覚がありました。それを無理やり結び付けようとしつつ、でもどこか納得がいかず葛藤していました。

旅の中で、クリスチャンが起業したお店に連れて行ってもらう機会もありました。あるハンバーガーショップでは、ドリンクカップの底やハンバーガーの包み紙に聖書の言葉が印刷されていました。別のパン屋さんでは、無料で聖書を配っていたり、店内の壁に御言葉が書かれていたりしました。こんな形でも信仰を表すことができるんだと、素直に面白いなと思いました。具体的に何で起業するかは決まっていませんが、もちろんどんな仕事を通しても神様の栄光を表す生き方をしたいと思っています。私は正直、お金を稼ぎたいです。クリスチャン界隈で「お金持ちになりたい」なんて言ったら、どこか信仰的ではな いと思われるかもしれませんが、本気です。

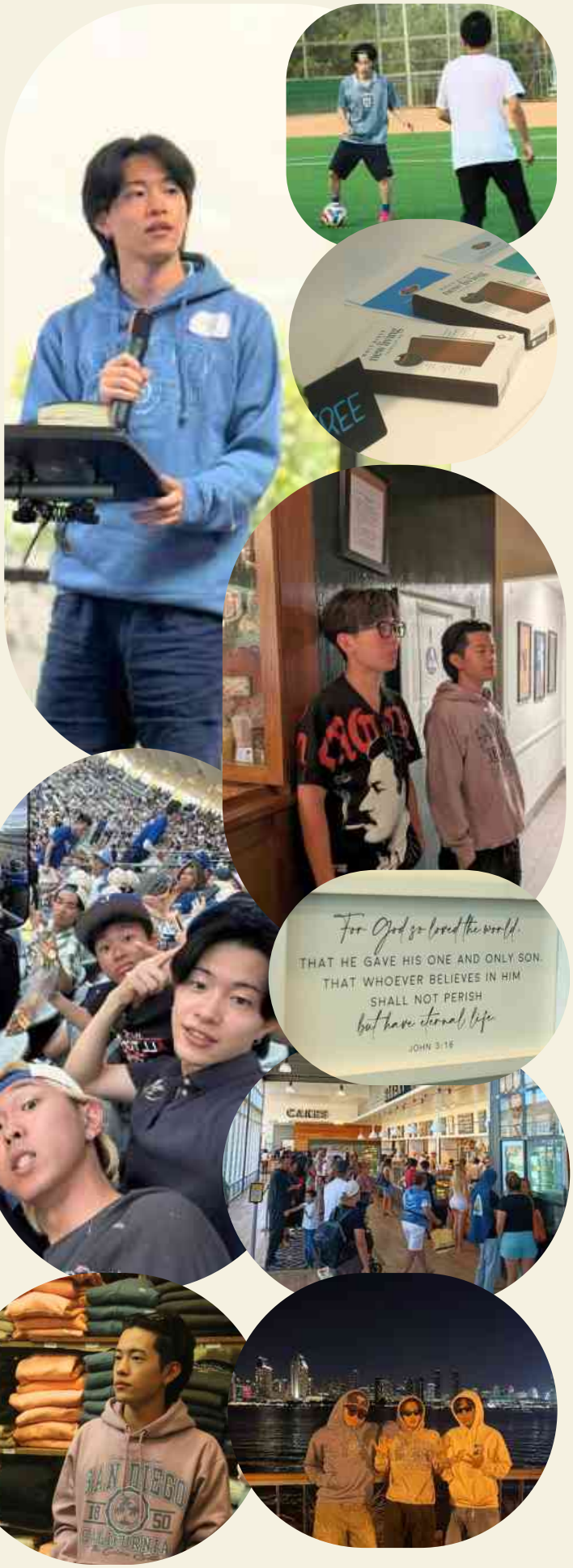
アメリカで3つの教会を見学しました。その3つすべてが日本では見たことのないような施設でした。ただ綺麗とか広くて大きいというだけではなく、デザインの大胆さやこだわりも感じました。アメリカと日本とでは当然教会を取り巻く環境や経済規模が全然違いますが、その上で特に印象に残ったのは、迎える側としての姿勢です。アメリカの教会では、ノンクリスチャンの人達を招くために、来たいと思ってもらえるようできる限りの工夫をしていました。その工夫の一つが綺麗で大きな建物です。もちろん一番大切なのは立 派な建物や見た目の派手さではありません。しかし、だからと言って見た目の部分があま りにも酷かったらどんなに良いことをしていてもそもそも来たいと思ってもらえません。

盛岡聖書バプテスト教会 近藤 大路

そういう意味でもアメリカで見た教会からは、見た目も中身も最大限のクオリティを常に 追求して全力で迎える、そんな姿勢が伝わってきました。

私は起業してお金を稼ぎ、できるだけ教会のために、宣教、伝道のために使いたいです。そんな思いが、今回の旅を通してより具体的になりました。お金の力は確かにすごいです。生きていくためには必要なものですし、お金さえあれば、、などと思ってしまうこともあります。同時に大きな誘惑で偶像にもなりえます。教会、伝道、宣教。実際お金があればもっとできることは増えるし可能性だって広がると思います。でもそれは決してお金がないとできないことではありません。だから私は、「お金があれば神様のために何かができる」と考えるのではなく、「お金があってもなくても、まず神様のために生きる。その上で、もし神様が自分にお金を与えてくださるなら、それをどう使うかを考える」という姿勢でいたいと思います。神様が私に富を与えてくださるかは分かりません。起業して成 功するかもしれないし、失敗するかもしれません。そもそも将来、本当に起業するかどう かすら分かりません。それでも、神様のために生きたいと改めて思わされました。 今回のサンディエゴでの15日間は、私にとって「宣教について学んだ15日間」である と同時に、「これから自分はどう生きるのかを考える15日間」でもありました。この報告 書を何年後かに自分で読み返したとき、振り返れるようにこの思いをここに残しておきた いと思います。 改めて、今回の宣教旅行を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。





サンディエゴ短期宣教旅行を通して

盛岡聖書バプテスト教会　渡部 詩音



たくさんのお祈りと献金をもって私たちを送り出してくださりありがとうございます。 ほんとうに、背後のたくさんの祈りがなかったら行くことの出来なかった旅だったと、確信して います。アメリカにいる間も、その祈りの力をたくさん感じていました。 私にとって初めての海外、初めての宣教旅行。全部が初めてで、新鮮で、毎日毎日刺激の連続で した。今、その2週間の間にグループラインに送られてきた数千枚の写真たちを振り返りながら も、写真を見るだけで、その時の会話や聞いたこと、帰って伝えたいと思ったことなど、鮮明に 浮かんできます。それぐらい、この２週間は私にとってあまりにも濃くて、一生忘れることので きない、素晴らしい時間でした。

国家試験が不合格となり、４月からの進路がどうなるのか全く分からなくなった３月。それでも、きっとこれも神様の素晴らしい希望の計画に向かっている途中なんだと、その神様に信頼して委ねようと盛岡にもう１年残ることを決めました。 人生のどん底のように感じていたけど、愛哉先生が、「詩音ちゃん、サンディエゴ行けるじゃん！！」と背中を(？)押してくださいました。盛岡に残ることになったことにも何かの意味があ るんだと、前向きに考えることができるようになりました。もし神様がこの道を開かせてくださ るならサンディエゴいきたいですと祈るようになりました。祈って祈って、緊張しながら愛哉先 生に、「アメリカ行きたいです」と伝えに行ったことを覚えています。

８月２８日から９月１２日まで、サンディエゴ日系キリスト教会にいってきました。オーシャ ンサイド、ラホヤの礼拝と、伝導集会。サンディエゴにこんなにも日本人がいるんだと驚きまし た。

印象に残った出来事は３つあります。１つ目はバルボアパークでの留学生との出会いです。 この日は留学生とバイブルスタディをする予定でしたが忙しいとのことでこれなくなり、とても残念に思っていました。そのあとバルボアパークに行き、日本人の留学生たちと出会いました。 「日本人ですか？」と声をかけたところからはじまり、気づけばすぐに、柏倉先生が次の日の夕食会 に彼らを誘っていました。こんな伝道のしかたがあるんだと、柏倉先生の背中を見て、本当に学ぶことがたくさんあったし、驚きました。日本ですれ違ってもきっと関わることのなかった彼らとアメリカで、共に交わり、「神様

盛岡聖書バプテスト教会　渡部 詩音

はいると思うか？」という柏倉先生の問いにみんなで真剣に考えました。ノンクリスチャンが神様についてどのように考え生活しているのかを少しでも知るこ とができたことは本当に恵みだったと思います。実はこの留学生たちと会った裏では柏倉先生の奥さんの晴香さんがこのバルボアパークでよい出会いがあるように祈ってくれていたと、あとになって聞きました。祈りの力は本当に凄くて、神様が生きて働いておられるということをたくさん感じることができました。

２つ目はベサニーの教会のことです。２回目の日曜日礼拝に出席 し午後に牧師たちにみんなでしつもんしあう時間がありました。印象に残った言葉は「君たちは キリストの日本代表なんだよ」という言葉です。すごくはっとさせられたし、そうだよなと改めて考える時間になりました。相手にどう思われるかをきにして、伝えることを躊躇しそうになることもあるけど、１％しかクリスチャンがいないこの日本で、この神様のすばらしさを、伝えなくてどうすんだ！！という気持ちになりました。この教会では、部屋をほかの教会にも貸し出したりもしていると聞きました。自分たちの教会だからと敵対するのではなく、私たちは同じ神様を見上げ礼拝しているのだから、地域の教会どうし助け合う必要がある、と言っていました。

３つ 目はバリーセンターのユースの集会のことです。現地についてまず驚いたのはほんとうにここが教会なのかと目を疑うくらい大きくて広大な土地です。そこで開催されたユースの集会には100名を超える子供たちが参加していました。

山の上にこんなにもたくさんのユースの子供たちがいること、本当に励まされました。特に感動したのは教会全体がユースを支える姿でした。 日本では中高生のイベントを大学生がサポートすることが多い気がしますが、現地ではおじい ちゃんやおばあちゃんがご飯を作っていたり、たくさんの大人がリーダーとして先頭にたって教会全体で集会を全力で盛り上げていました。また、人を集めるための工夫がたくさんされてい ました。 アメリカでいくつかの教会を訪れる中で、感じたことは人を呼ぶための努力がほんとにすごい と思いました。遊ぶ場所があることや、大きい玄関、かわいい壁だったり、ノンクリスチャンにも来たいと思ってもらうことは大事なんだと気づくことができました。ウェルカムされること ってこんなにも嬉しいことなんだと思わされました。これからは教会に初めて来てくれる人が いたときに、もっと積極的に声をかけたり、自分にできることを精一杯していきたいと思いまし た。

この２週間、ほんとうにたくさんのことを体験し、刺激をもらい、神さまの造られた世界はなんて大きくて素晴らしいんだろうと何度も思いました。アメリカでのたくさんの恵みと祝福を忘れずに、日本に、また盛岡に持ち帰り活かしていきたいです。サンディエゴのためにも祈り続け ていきます。 たくさんの祈りと献金を送り出してくださった皆様に感謝でいっぱいです。本当にありが とうございました！！！！



短期宣教チームと共に過ごして

サンディエゴ日系キリスト教会　柏倉直人



サンディエゴ在住の柏倉直人です。改めまして、今回のミッショントリップに限らず常日頃、我々柏倉家の宣教やその他の生活面においてお祈りくださりありがとうございます。自分自身、海外生活で様々な葛藤と挑戦がありつつも皆様の支えのおかげで今こうして充実した生活をおくれていることに感謝を伝えさせていただきます。加えて今回のミッショントリップも皆様のお祈りと献金のもと成り立っていること、そして大成功に終わったのも皆様のお祈りと神様の支え無しには成し得なかった奇跡だと実感しています。本当に感謝しています。

今回のミッショントリップにて、私自身もイベントに多く参加させていただいたので手短に振り返らせていただきます。

ミッショントリップのメンバーとは、英里子さんを除いて全員初対面でした。しかしすぐに打ち解け私自身とても楽しい時間を過ごさせてもらいました。予定がかなり詰め込まれたトリップだったためはじめの方は体調面において心配でした。少し体調を崩してしまった方もいた一方で、神様の導きと守りの中で大きな事故や怪我なく全員が揃って帰国できたことが何より感謝で嬉しかったです。

さて、私は現在アメリカのサンディエゴのMesa Collegeという大学に通っています。ミッショントリップの開催と大学がかぶってしまい、授業に出席する合間を縫ってミッショントリップのイベントに参加する形になりましたが、このミッショントリップの開催を通し多くのことを学ばさせていただき、気付かされたことがたくさんあります。特に、海外が初めてといった歳の近いメンバーと時間を過ごし、彼らがいろんな視点で物事を見る様子は私自身新しいインスピレーションをもらい、毎日生活しているはずの空間が全く別のものとして新鮮に見ることができました。また、このトリップを通しての最大の収穫は男子メンバーと過去の出来事を共有し、分かち合う中にありました。メンバーのほとんどが私と同じくクリスチャンファミリーで育ったという共通点を持っているため、とても話しやすく、たくさんの意見を共有する時間は私にとってとても価値のあるものとなりました。アメリカの地に足を踏み入れてから２年以上が経過し、日本語は家族としか話さない英語漬けの生活を送っているうちに、無意識に日本人としての視点や考えが薄まっていることを今回、日本人の同世代と交わる中で感じました。

サンディエゴ日系キリスト教会　柏倉直人

幼少期をオーストラリアで過ごし高校と大学をアメリカで過ごした私は、日本生まれで日本語を話せるものの、どこか日本人になりきれない部分があるように感じます。日本に帰国すると帰国子女として外国人のように扱われる。一方で、アメリカに住んでいてもアジア人として外国人扱いされる。友達にも恵まれて決して孤独ということはないにしても、私は自分のアイデンティティに悩む時期が長くあり無意識の中で孤独感を感じながら、自分には完璧な居場所がないんだと思い込んでいました。

しかしこのトリップでメンバーのみんなと出会い、再度クリスチャンの温かさを身にしみて感じました。自分が人種的にアジア人、日本人であろうと、文化的に外国人であろうと関係なかったのです。神様、そしてイエス・キリストを中心としたクリスチャンファミリーが何よりも私の居場所ではないかと気付かされました。私は自己中心的な考えで”自分はこうだからこう”と勝手に決めつけていただけで、神様という大きな存在を前にしては人種も文化も関係なく、信仰をもとにつながるクリスチャンの輪が最大の居場所だったのです。

今後も大学生活を送る中、また将来のことで様々な困難や壁にぶつかると思います。その際は神様を中心とし、導いてくださいますように信仰を強く持って歩んでいきたいと思います。

人間は弱いものです。身近な些細なことで信仰心が煽られ道を踏み外してしまうことがあります。皆さんも神様を中心としたクリスチャンというファミリーのメンバーであるので、今後もお互いに祈りあえていけたらこれほどにもなく幸いです。

最後に、今回のミッショントリップを企画し、また送り出すための献金や祈りをささげてくださった方々に心から感謝し、主の支えと導き、そして祝福がありますようにお祈りしています。メンバーのみんなありがとう！濃い２週間でした。Hope we see each other soon!!







